

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠 様

平成18年6月7日

武庫川流域委員会
委員 池添康雄

整備計画の目標値の選定についての意見書

委員会の運営につきましてはいろいろお世話になりありがとうございます。
下記の理由によりまして第43回流域委員会資料2-6の整備計画レベル④を
選定します。

1、整備計画・治水安全度について

上流の三田が1/30の規模で整備がされておることから、三田以上に人口・
資産が多く集積しかも天井川である下流域の安全を考えますと、下流に住む人
間としましては三田と同じ規模の1/30を望みます。

2、流域対策（学校・公園・ため池・水田）について

学校、公園の分担量が100%と活用できる前提の計画は、いかがなものか。
利用上の問題もあり実現性を考えれば基本方針で100%に設定し、整備計画
では50%程度すべきではないか。ため池、水田については農家の協力が不可
欠で、一旦浸水した田畑が従来どうりに耕作できる補償など、実現性を考えれ
ばあまり高く期待することは問題があり、むしろ計画の余裕と考える方がよい
と考えます。

3、貯留施設（既存ダム、遊水池、新規ダム）について

既存ダムについては、現実に自己水源として確保しているものを容量低下さ
せることであり、相手の同意を得るのが極めて困難と考えられる。特に、千
叡ダムの場合は、減量する代替水源の確保が容易でなく、費用も膨大になると思
われ。実現性から考えると千叡ダムにも大きな期待は持てないと考えます。

遊水池については、県有地はともかくとして、ほ場整備が済んだ優良農地を
遊水池にする考えは、農家の気持ちを無視した勝手な考えであります。農村を
保全、育成するということを考えれば簡単に理解を得られるものでなく、実現性
は低いと考えております。

以上のことから、新規ダムはやむを得ないと考えております。
ダムが環境に与える影響が大きいのは否定できませんが、人の安全・安心も係
っているのです。環境への影響を少しでも、回避することと治水との関係に、
知恵と工夫こそ大切であり、我々下流の住民が心配することのないような計画
づくりに努力をしてもらいたいと考えております。